

促成イチゴの収穫前進に関する研究
第 6 報 苗の低温処理期間と入庫時葉数の影響

松尾良満・*山口一三 (佐賀県農業試験場三瀬分場・*上場農業協同組合)

Yoshimitsu MATSUO and Kazumi YAMAGUCHI : Early Harvesting Time of Strawberry Forcing Culture

6. Influence of Low Temperature Treatment Times and Leaf Number of Nursery Plants

前報では、定植時の速効性窒素施肥分量の割合と、その後の生育と第 2 花房の花芽分化、第 3 花房までの出蕾開花、収穫時期、収量などについて報告した。今報では、苗の低温処理期間と入庫時葉数が生育や花芽分化率、成功率、収量などに及ぼす影響について検討を行った。

御協力いただいたイチゴ生産者、農協、農業改良普及所の各位に対し謹んで感謝申し上げます。

1. 材料及び方法

ポット育苗された“とよのか”を用い、低温処理期間は、10日～20日間までの5処理で坂田氏(東与賀町)の苗を、葉数は、2枚～5枚の4処理で熊谷氏(八女市)の苗を供試した。低温処理は、15℃±1℃の暗黒条件で1987年8月13日に入庫し、葉数試験は15日間処理とした。

定植は、出庫後裸地で順化後2回液肥を追肥し、9月7日に2条植えとした。施肥量は、基肥にN20, P₂O₅30, K₂O16kg, 追肥にN26, P₂O₅30, K₂O22kgを施し、マルチングを10月7日、ビニール被覆を10月14日の電照(11月20日～3月5日)栽培とし、11月5日～1988年4月30日まで収穫調査を行った。

第1表 低温処理促成とよのかの低温処理期間、葉数と花芽分化・成功率(1987)

Table with 10 columns: 処理区, 出庫時 (外葉数, 内葉数, 乾物率%), 出庫時ステージ別花芽分化 (未分化, 止葉決, 肥厚期, 2分期, ガク片形), 成功率 (株数, %). Rows include 10日間, 12日, 14日, 16日, 18日, 20日, and 2枚, 3枚, 4枚, 5枚.

2. 結果及び考察

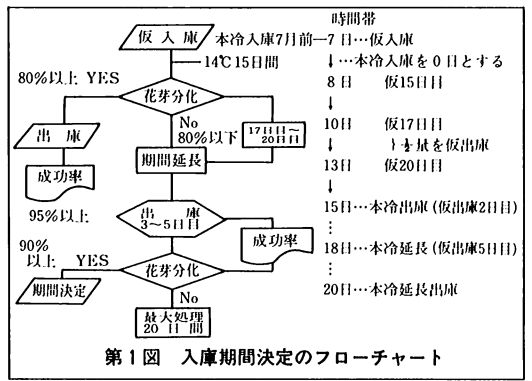
1) 低温処理期間 苗の入庫時葉身窒素含有量は、1.54%とやや高く、クラウン径9.5mm、苗重20g、葉面積232cm²の中苗の場合は、出庫時の花芽分化率は16日目に83%、20日目に100%となり、成功率(低温処理効果発現株率)は18日目(432hr)から安定し93%であった。

2) 入庫時葉数 苗の入庫時葉身窒素含有量は、1.19%と非常に低く、クラウン径10.5mm、葉数4枚で苗重29g、葉面積441cm²、乾物率23.2%と大苗健苗であった。

入庫時に摘葉したが15日処理において、花芽分化率は、少しバラツキが認められるが、成功率はいずれの葉数も90%前後と安定していた(第1表)。

3) 収量 年内収量は、16日間処理、葉数5枚区が多く、全体収量は、16日間～18日間、葉数4枚区でやや多収となり、低温処理は14日間以下では不安定である。

以上の結果から、入庫時の葉身窒素含有量によって最適処理期間が変動する。(15日間～18日間)ことから、入庫前に栄養診断をするか、仮入庫(第1図)してモニターして入庫期間を決定する方法が望ましい。葉数は、少ないと出蕾開花が遅れ乱れるので、揃いや定植後の生育から4～5枚は必要と思われる。



第2表 とよのかの低温処理期間と入庫時葉数別の収量(1987～'88)

(10a当たり)

Table with 10 columns: 処理区, 11月 (Kg, PAC数), 12月まで (Kg, PAC数), 1月～2月 (Kg, PAC数), 3月～4月 (Kg, PAC数), 合計 (Kg, PAC数), 対比 (合計, 12月まで). Rows include 10日間, 12日, 14日, 16日, 18日, 20日, and 2枚, 3, 4, 5.